

概要版

清水町新体育館等建設工事基本設計書

株式会社 岡田設計 帯広事務所

◆新体育館の建設コンセプト

- 1 子どもから高齢者まで誰もが気軽に健康づくりや体力づくりのできるスポーツ活動の拠点とする。
- 2 スポーツによる地域コミュニティ形成の場とする。
- 3 災害時に避難所として活用できる施設とする。
- 4 地域脱炭素への取り組み

1 子どもから高齢者まで誰もが気軽に健康づくりや体力づくりのできるスポーツ活動の拠点とする。

現在の体育館は、市街地から離れているとともにバリアフリーの設計がされておらず、スポーツを行う人や学生、障がいがある人たちの利用が中心となっています。また、清水小・清水中学校からも離れていることから、少年団活動等においては保護者の送迎を要しています。新体育館においては障がいの有無にかかわらずスポーツを行う人や健康づくりを行う人など多様な人たちが、通年で気軽に足を運び快適に運動を行える施設とします。

2 スポーツによる地域コミュニティ形成の場とする。

スポーツを「する」だけではなくスポーツ文化の基本的な考え方である「みる」「ささえる」ことによる、スポーツの持つ感動や活力を、子育て世帯から高齢者までにもたらし、スポーツを通じた地域コミュニティが形成される施設とします。

3 災害時に避難所として活用できる施設とする。

地域防災計画で清水市街地における指定避難所は6施設指定されていますが、清水小学校、清水中学校、清水高校以外の3施設は洪水浸水想定区域内にあります。そのため、避難が長期化した場合、学校再開に影響を及ぼす恐れがあることから、新体育館は被災者が一定期間避難生活を送れる施設とし、停電時にも自家発電機へ切り替え可能な設備を計画し、被災者が不安なく避難できる施設とします。

4 地域脱炭素への取り組み

2020年10月、政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体として実質ゼロにする、カーボンニュートラルを目指す宣言を行いました。

ここ数年各自治体が脱炭素社会の実現に向けゼロカーボンへの取り組みが盛んに行われており、本町も令和3年10月に「ミライに繋ぐゼロカーボンとかち清水宣言」を行い動き出しています。

当計画施設は稼働時に二酸化炭素の排出を抑えた脱炭素施設として、「クリーンエネルギー＝自然エネルギーの活用」「木材の利用」「リサイクル可能なエコ材料」を使用することにより、エネルギーの「無駄」をなくし、建物で消費する年間の一次エネルギーの収支を実質ゼロにする「ZEB（ネット・ゼロ・エネルギー・ビルディング）」の考え方で“ゼロカーボンとかち清水”の実現を目指す施設とします。

◆配置案

『安全・安心な体育館』

建物を北側に配置することにより、敷地北側に位置する産業道路で大型車の往来の多い道道北清水清水線（以下「道道」）への敷地からの出入りが無くなり安全性が高くなります。

建物は南側採光が十分に確保されることで、光熱費負荷が軽減され暖房のランニングコスト面でコストダウンが図れます。

駐車場も南側採光により、雪融けが早まり日陰が少なくなることで路面の凍結も緩和されるため安全面でもメリットがあり、管理コストも下がります。

『周辺への影響』

建物を敷地の北側へ配置することにより、近隣への圧迫感、日陰、音の問題も回避されます。

日影は建築基準法の規定に沿い、北側道道からは10m離し、日陰などの対策を行い、音に関しては騒音規制法の規定により当敷地は第一種区域に該当する事から周辺100mの予測調査を実施し規定に適合するよう対処致します。

『動 線』

敷地の北側に配置した体育館は北側道道境界から10m、西側町道境界から10m、東も10mと建物周囲の空地を大きく取り、バックヤード動線（熱源供給、従業員駐車、器具搬入）と緊急車両の動線として計画します。

安全な交通ルールとして、東面と西面の町道を施設への入場と退場とに分ける一方通行動線となるようサイン誘導を使い安全な施設への誘導を行います。

◆平面案

『陽ざしたっぷり・効率的な間取り、競技団体のニーズを反映したプラン』

本町は、日勝峠の入口に位置し日高山脈から冬場に北西面の風が強く吹雪になることが多い。各公共施設も北西面からの吹雪対策は必要であり、平面案は西側にバックヤード関係、南側にトレーニングルームを配置し正面入口から入場する施設利用者への防風雪対策を配慮した計画となっています。

敷地の北側に建物を配置したことにより、南側駐車場からのアクセスがメインであり、玄関、ホールを配置し、たくさんの南側採光を取り入れます。

施設の中央にホールを配置し、北に第1競技場、南にトレーニングルームとしたことでホールを兼用できて必要最小限にすることができます。

北面の第1競技場はこのホールに面したコミュニティホールから全体を確認でき、休憩、見学、大会運営など多用途な空間に活用できます。

事務所も入口玄関横に配置することで、外部の視認性だけでなくホールを全体的に見渡せると共に第1競技場に面していて、緊急時に直接競技場へ出入りできるなど、管理ゾーンとしての機能を十分に果たします。

2階は柔道・卓球・剣道ができる第2競技場を配置。中央で仕切り柔道と卓球や剣道に分けることが可能で競技団体の利用ニーズを反映します。

2階のウォーキングコーナーは、現在の体育館でも毎日一定の利用があることと、選手のウォームアップコーナーになるとともに、競技場での多種多様な大会の応援ギャラリーとしても利用できます。

『心も豊かになる空間の提案、町民ファースト』

1階に第1競技場に面した幼児室や授乳室を設置します。

スポーツをしない人も気軽に入館できるよう競技場、幼児室以外は土足利用とします。

ホールにはフリーで利用できる給湯コーナーを設置、夏場はくつろぎホールと屋外のデッキスペースをつなぎカフェ的なエリアにより町民がスポーツ施設に親しんで交流が深まるような空間を設置します。

2階のウォーキングコーナーは競技への影響が及ばないようにした上で窓を配置し、運動しながら外部の景色も楽しめる快活な空間とします。

『柔軟化による“ムダ”のない“スキ”のない空間計画』

1階のコミュニティホールは可動間仕切により個室化することを可能とし、通常はくつろぎホールと一体化したゆとりのある空間を提供します。第2競技場は可動間仕切でそれぞれの競技へ柔軟に対応する、“ムダ”のない“スキ”のない空間として利用できるようにします。

ウォーキングコーナーは、アリーナの天井の高い空間に配置すると上部が“ムダ”な空間となります。

この“ムダ”を無くすためにウォーキングコーナーの一部をハネ出すことで空間に“ムダ”がなくなり、空調などのランニングコストのダウンが図られます。そのハネ出しウォーキングコーナーの下はピロティとなり自転車置場や屋外イベント時の防雨空間にも使えるなど“ムダ”のない“スキ”のない空間計画とします。

◆断面計画

第1競技場の天井高さは、公式バドミントン競技で12m必要であり、バレーボールは10m必要です。

現在の競技団体から、梁下で12m以上取れるように計画します。

第2競技場の天井高は、既設の高さ3.65mを目安とし、柔道・剣道・卓球が行える4mとします。

第1競技場を含む施設の1階の階高を4mと設定し、第1競技場に面する器具庫、ピロティの上部をウォーキングコーナーとします。

◆外観計画

外観は施設の規模や立地条件から象徴的であり、印象的で町民から親しまれ飽きのこないデザインを目指します。

材料は「耐久性」「耐候性」の高いものとして、ガルバリウム鋼板や十勝の風土に見合うレンガ、下地を外断熱とすることから、漆喰調で呼吸する塗り壁、断熱と鋼板の組み合わせにより双方の良いとこ取りの断熱サンドイッチパネルの採用を検討します。

要所のポイントや屋外のテラスなど耐久性が高く、デザイン性も優れている「合成木材」も使用します。

◆環境計画 ～二酸化炭素排出削減、カーボンニュートラルを目指す～

『クリーンエネルギーの活用』

暖房設備に化石燃料を使わずクリーンエネルギーの電気による空調機を活用することにより、二酸化炭素排出量の削減を目指します。

『木を使う』

木を育て、木を活用することは地球を守ることに繋がります。

「伐採→加工→使用→植える→育てる」木のリサイクルを上手に循環させ半永久的に再生していく、これからの時代の私たちの宿命です。

当計画施設に可能な限り木材を使用したいと考えており、町有林の活用を検討します。

『自然の“チカラ”を有効に活用する』

太陽光発電を設置します。

施設は南からたくさんの光を取り込むことが可能で、ホールのガラスを利用した発電もしくは壁面にパネルを設置し、ホールに災害時用の備用電源を確保し、平時は一般電源として常時使用できるような創エネ、省エネ化に努めます。

夏・冬一定の温度を保っている地中の熱を利用し、[※]アースチューブにより施設の必要とする外気の給気は機械を通さずコストをかけない方法で加温し供給します。

※アースチューブ

採り込んだ外気を地中に埋設した管を通し室内に送り込む手法。

◆防災機能

『自家発電機』

当施設は、地域防災計画の避難所として想定します。敷地東側に隣接する中学校と、敷地から1km程の小学校が避難所として指定されていますが、当施設の避難所受け入れ人数は約310人以上が可能となり、現体育館横の避難所である農業研修会館の2倍以上となります。

災害によるインフラの復旧に要する平均時間は3日とされており、発電機の稼働時間も3日間発電することが一つの基準となっています。

当施設も3日間で最低限必要とされる暖房、照明、コンセントを確保できるような発電機の容量(保管灯油の容量)を設置します。

自家発電機は毎年轻油のように入れ替える必要のない灯油式とします。

『太陽光』

太陽光発電により、コンセントを数ヶ所防災時に使用できるようにします。発電した電気は平時でも使用し「自然エネルギー」を有効活用します。

『トイレの排水』

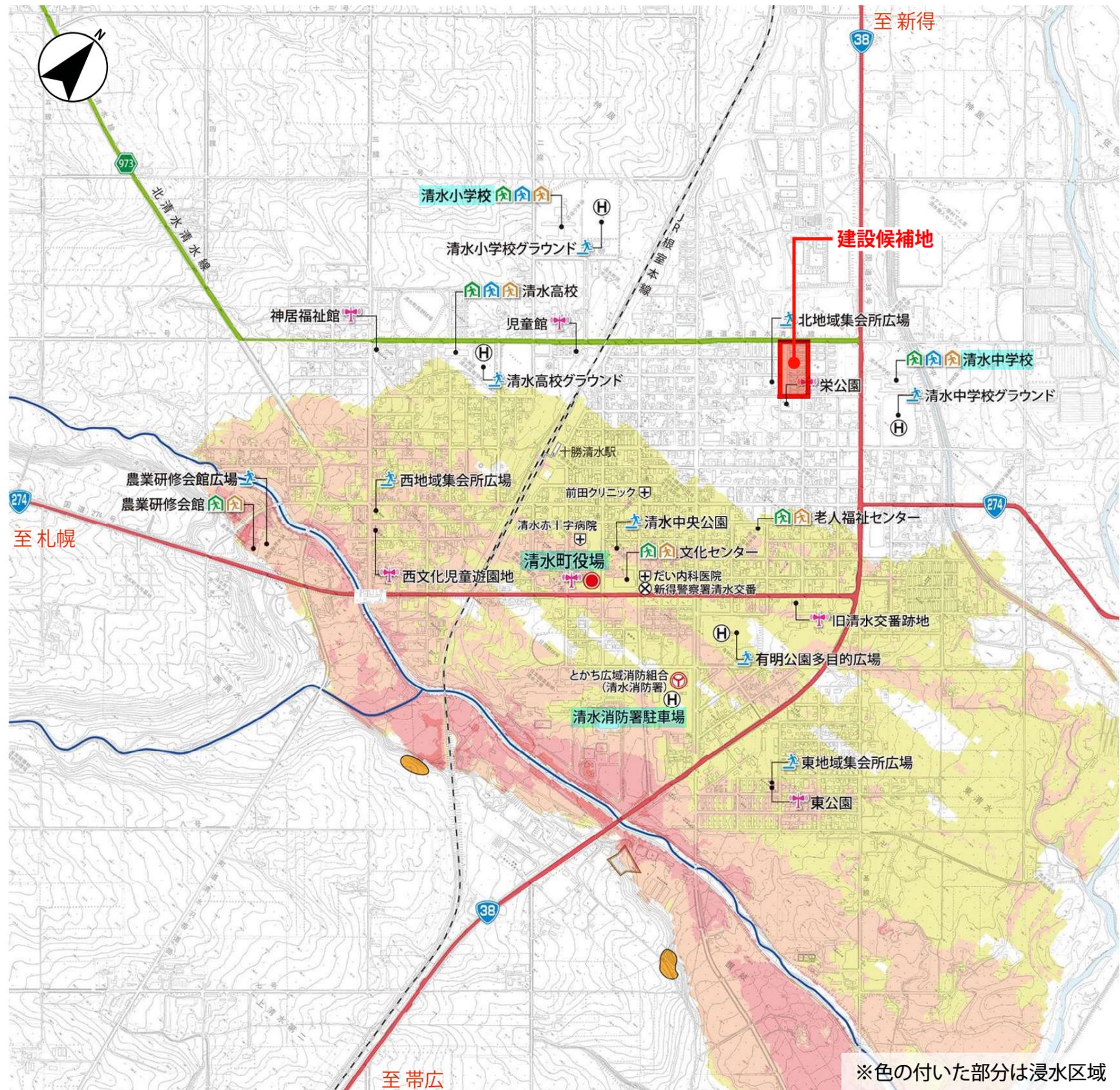
災害時の断水対策として、消火用の水槽をトイレの排水用として使用できるように発電機回路にポンプ回路を組み込みます。

『飲用水』

災害時における飲料水の確保について検討します。

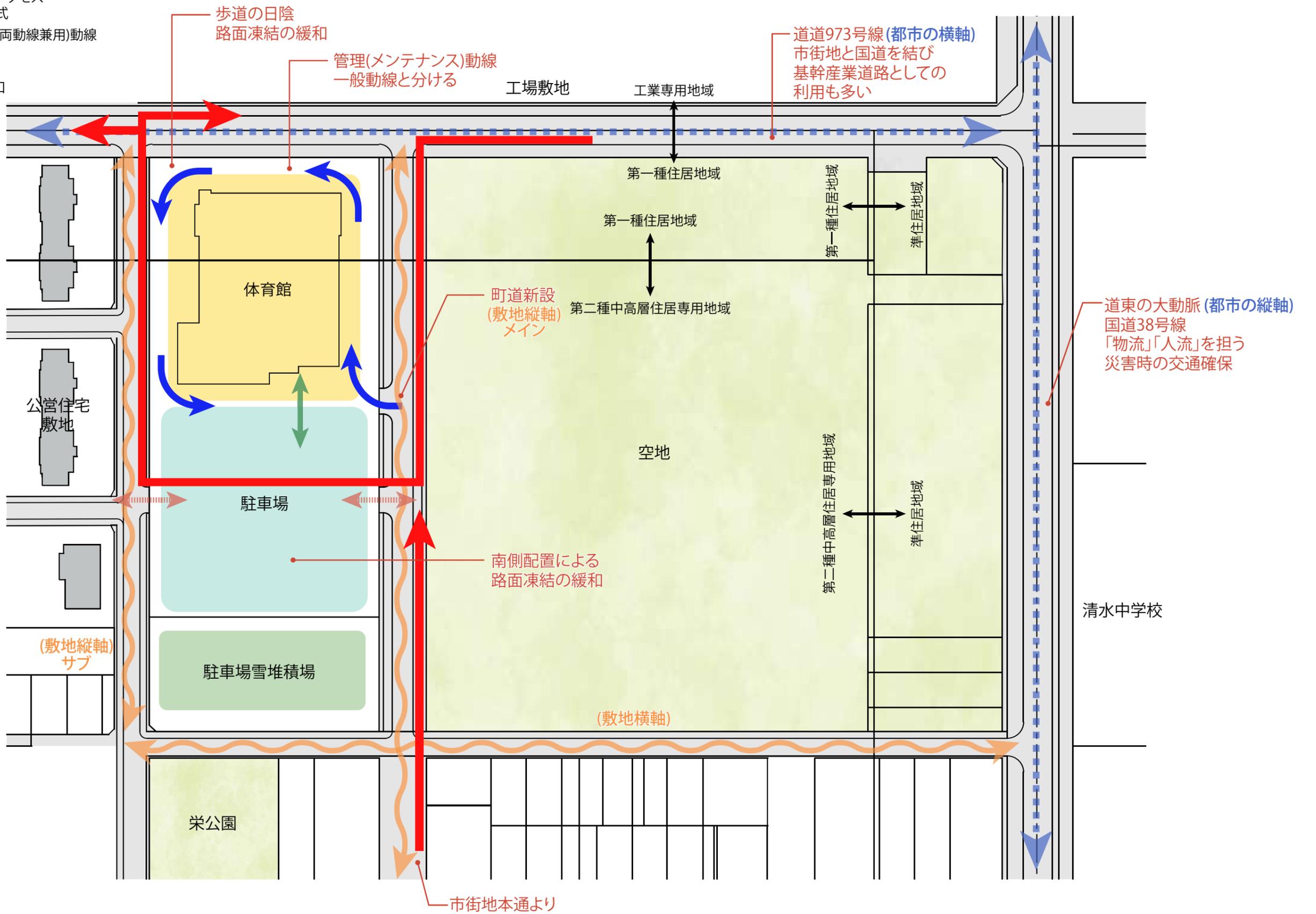
◆事業費

概算事業費(建物本体・外構・用地取得費・備品等含む) 23億9千万円

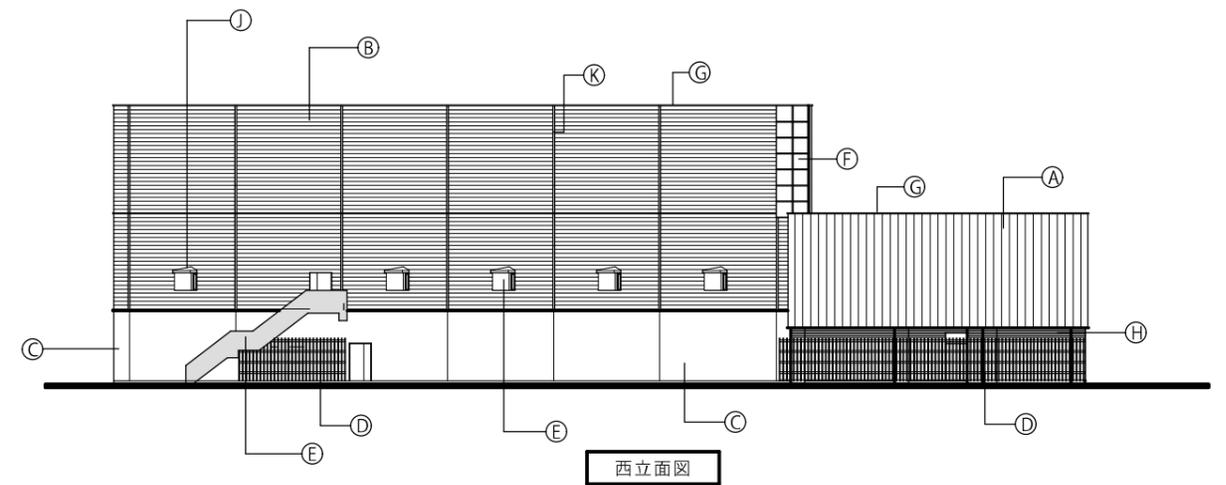
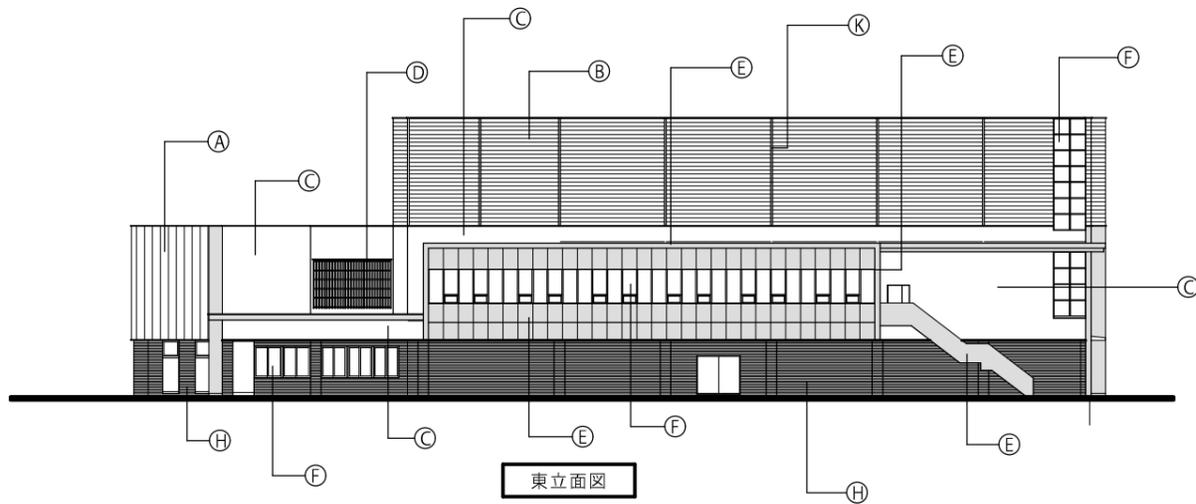
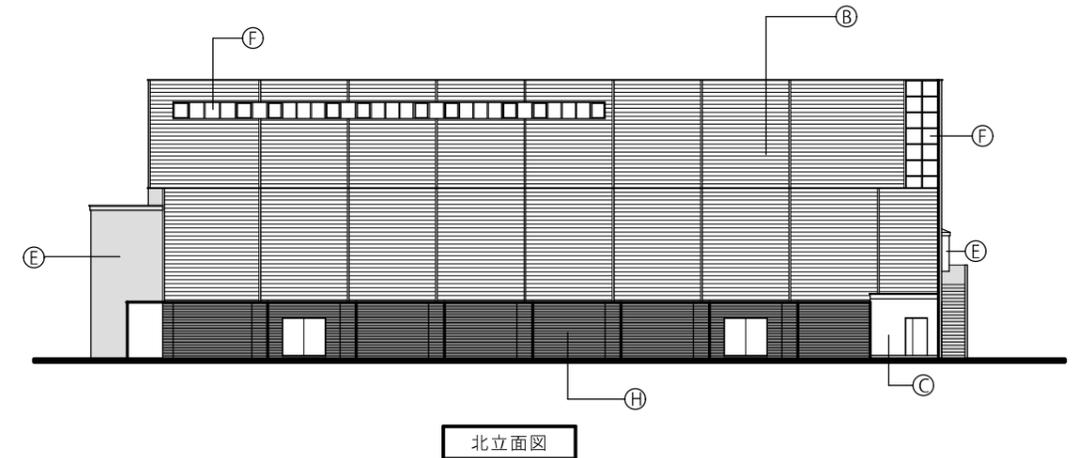
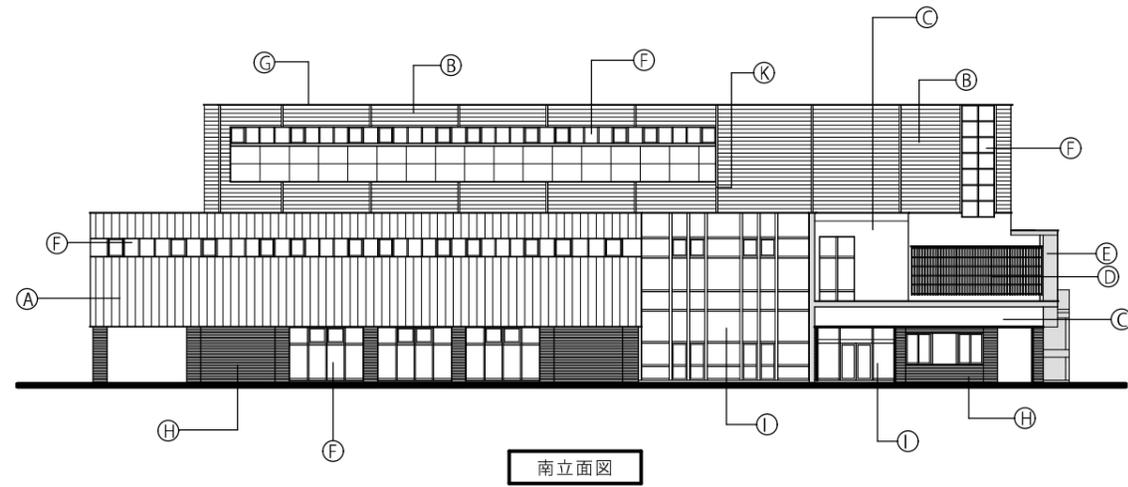


敷地ゾーニング

- 体育館利用アクセス
→ 一方通行式
- 管理(緊急車両動線兼用)動線
- ↔ 人の動線
- ⇄ 駐車場出入口



■ 立面図



※参考の仕上					
Ⓐ	T0.4 ガラ-鉄板 立平葺き	Ⓖ	アルミ笠木 (カラー)		
Ⓑ	T0.4 ガラ-鉄板 ヨロイ横葺き	Ⓕ	レンガタイル		
Ⓒ	湿式外断熱工法吹付塗装	Ⓖ	アルミ複合木製サッシ		
Ⓓ	合成木材ルーバー	Ⓖ	T0.35 長尺カラー 鉄板アリガケ		
Ⓔ	コンクリート打ち放しクリアー塗装	Ⓖ	T0.4 カラー鉄板役物見切り		
Ⓕ	アルミサッシ (カラー)	Ⓖ			

設計イメージ

